

平成 27 年 9 月 17 日 00239 号

編集者:佐藤 寿春

北見武道通信

北見市幸町 8 丁目 4-4(佐藤整骨院内)

NPO 法人北見市武道振興協会事務局発行

直通:090-5986-0839

代表:0157-22-2212 Fax:0157-23-0581

satou.tosiharu@navy.plala.or.jp

ニュースレター【事務局情報】

窓ガラス越しのけいこ風景 第11回目～道場2(北側外から窓ガラス越しに)～



北見市武道館の1階の道場2は縦19m横30mの広さがあり、ニレの無垢板を使用した道場です。北側の二ヶ所に大きな窓ガラスがあり、稽古中の様子を窺えます。夕方になり、周りは暗くなりかけたころ、道場内のから明かりで窓ガラス越しに剣道に真面目に取り組む子供たちの凛々しい姿が写ります。

秋季弓道講習会と北海道連合審査が北見市武道館で開催されました！



9月12日北見地区秋季弓道講習会、13日北海道連合審査(四段・五段)及び第三回地方審査が二日間に亘り北見市武道館で行われました。連合審査は昨年から行われており、約170名

が武道館に集まりました。張りつめた審査会場に対し控え「武道の広場」は和やかにな感じでした。

第3回北心会フルコンタクト空手道選手権大会が北見市武道館で開催されました！



9月13日(日)北見市武道館の道場2に於いて第3回北心会フルコンタクト空手道選手権大会が開催されました。会場は小中学生男女約100名の選手が日頃の成果を競い合いました。主催者の越智勝さんは、「この大会が地域に根付き、青少年の健全育成に少しでも役立ってほしい。」と空手道の普及に意欲を見せてくれました。また、「北見市武道館は綺麗で使いやすい、この大会を開催するには最適で、今後も毎年開催していきたい。」と話してくれました。

連載「武道宝鑑」第5弾 柔道の本義と修行の目的 嘉納治五郎 講道館師範

講道館柔道は、今日は誰もが知っているように、往時の柔術から進化した文武の道の修行である。往時の柔術は、剣、槍、弓、馬等の諸術と相対した一種の武術であったに相違はないが剣術と槍術との区別が、一は剣を以てし、一は槍を以てすとか、弓術と馬術との区別が、一は弓を用い、一は馬を用いるという風、柔術は他の武術と劃然区別の出来るものでなかった。若し、剣術が剣を使用し、槍術が槍を使用して練習する術であるように、柔術が無手で練習する術と極まって居たならば、劃然たる区別が出来たのであるが、実際柔術では無手の練習をするばかりでなく、木刀袋竹刀なども用い、又それ等以外の武器を用いても差支えないのであるから、種々の武術を総合したものであるということも出来る。殊に柔術の柔という字は、剣とか槍とかというような一種の武器の名称でもなく、又何等の武器も用いないという意味の字でもない。それは相手の力に反抗せず、順応して勝つ術という意味であるから、無手の場合にも、剣や槍を持って練習する場合にも、同じようにその理屈が当てはまるのである。

つづく